

かん のん かしはら ちょう  
観 音 寺 町

観音さんは寄せ木造り

南から北に流れる曾我川西岸沿いの、御所市との境にある本間山（一四二・八メートル）北ふもとに広がる当地は、戦国時代（一五〇〇―）に土地の豪族・越智氏が支配する「観音寺」として登場します。

江戸から明治時代に至るまで「観音寺村」と呼ばれ、明治二二年に新沢村「大字・観音寺」となって大正・昭和の時代を過ごします。昭和三一年七月に檀原市の大字となったあと、同年一〇月から「檀原市観音寺町」となっています。

地名が生まれるもともになったと伝えられる浄土宗・観福寺が町の東南にあり、そのことをうかがわせる寄せ木造りの十一面観音立像が古くから境内の観音堂に祭られています。また、越智氏分家一門の三八氏が創建し祖先神を祭ったという三十八社神社が、同町東南の字・花木に鎮座しています。

農地の広がる同町で田植えの終わる毎年六月に、早苗振（さなぶり）と呼ぶ三十八社神社の祭りが行われています。当日、稲苗三束に山海の珍味を供え田植えの終わりを神様に告げ、当年の豊作を祈願する習わしが当地の一部農家に残っているようです。